

合理的配慮 — 何が求められるの？

～ 僕の経験を通して考えたこと ～

七沢自立支援ホーム

矢部健三

# 僕のプロフィール

- 13歳で失明し、盲学校に転校
- 全盲で初めて県立普通高校に進学
- 大卒後、七沢自立支援ホーム勤務
- 点字・PC等訓練と生活支援を担当
- 趣味はスキー



# 今日のテーマ

- 「視覚障害」ってなんだろう？
- 中学・高校・大学で求めた配慮
- 社会人になってから求めた配慮
- 仕事や社会活動で提供した配慮
- 私たち職員が「合理的配慮」のために考えなければならないこと

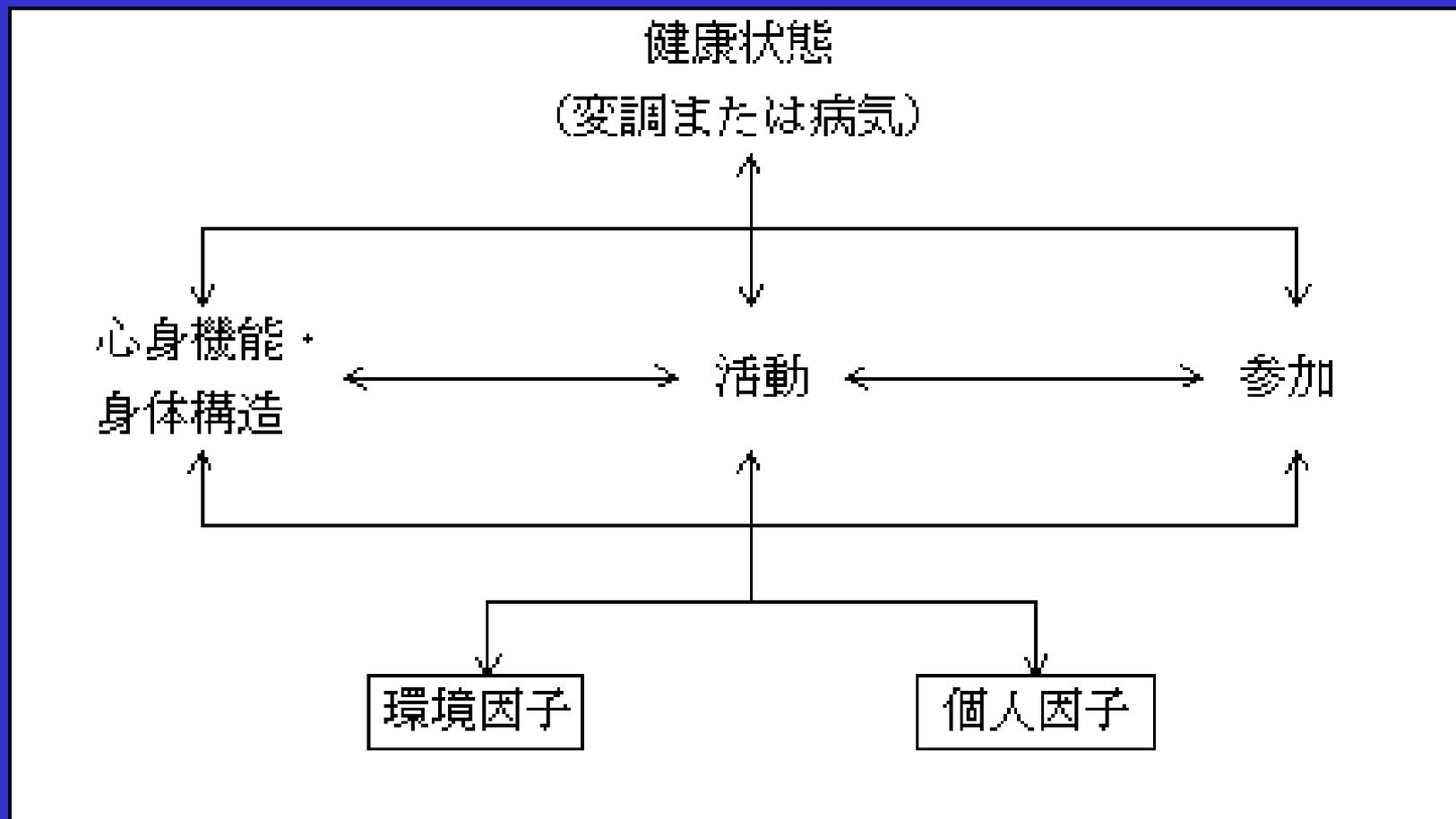
Q:視覚障害ってどんな障害？

# 視覚障害等級表

1級	両眼矯正視力の和が0.01以下
2級	1.両眼矯正視力の和が0.02以上0.04以下 2.両眼視野がそれぞれ10度以内かつ損失率が95%以上
3級	1. 両眼矯正視力の和が0.05以上0.08以下 2. 両眼視野がそれぞれ10度以内かつ損失率が90%以上
4級	1. 両眼矯正視力の和が0.09以上0.12以下 2. 両眼視野がそれぞれ10度以内
5級	1. 両眼矯正視力の和が0.13以上0.2以下 2. 両眼による視野の2分の1以上がかけている
6級	矯正視力が1眼は0.02以下、他眼は0.6以下で、 両眼矯正視力の和が0.2以上

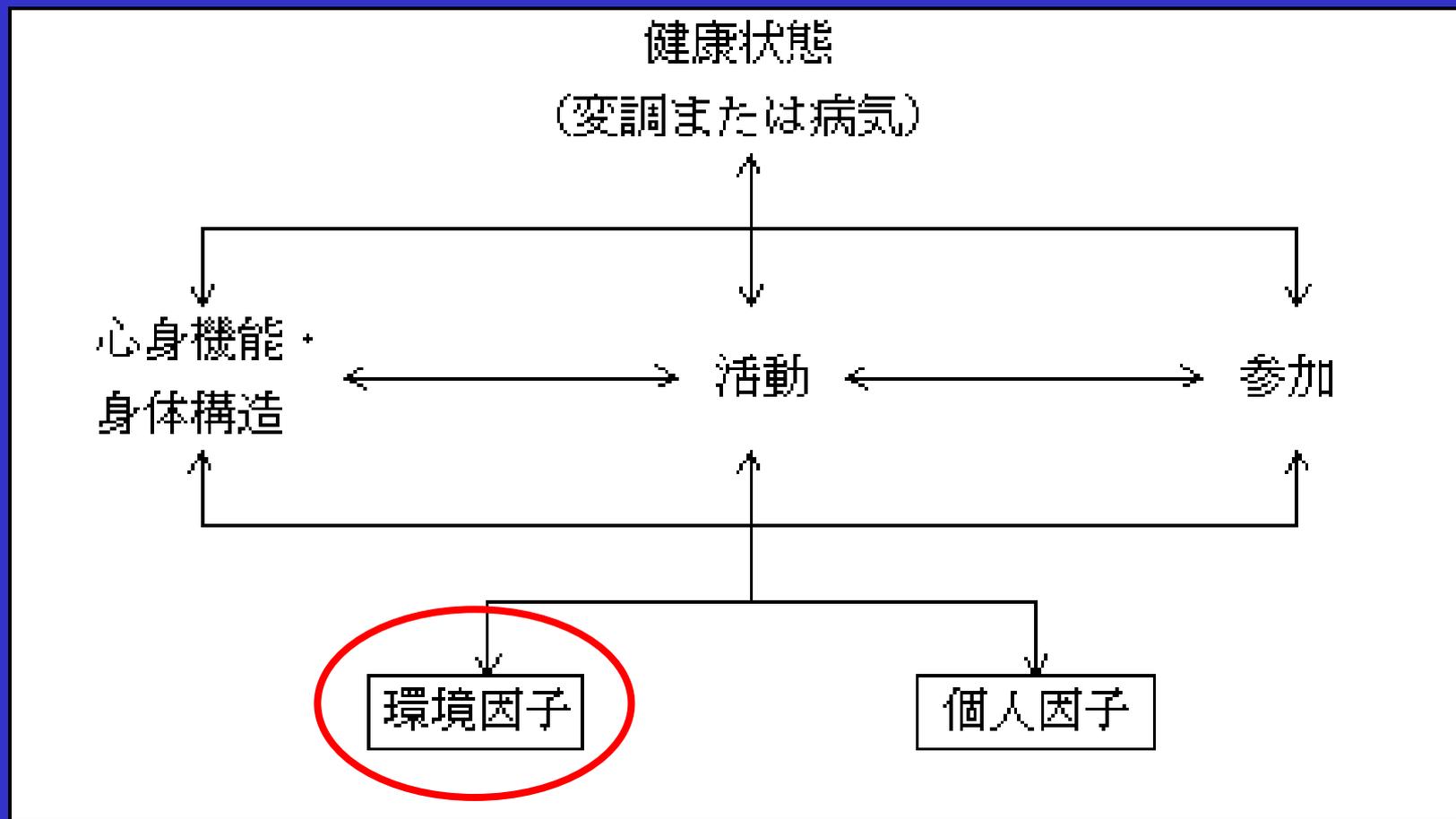
# 「障害」の社会モデル

※WHO「国際生活機能分類」



# 差別解消のための合理的配慮 は...

※WHO「国際生活機能分類」



# 中学時代に求めた配慮

- 普通学級への在籍継続
- 通学路の歩行訓練
- 普通高校入試の点字受験・時間延長
- 受験会場の暖房

# 春の光に包まれ

## 支えた点訳主婦ら

目の不自由さを克服し、見事県立高校に合格。三日、有馬高校（堀江澄男校長、海老名市社宅）の合格発表表には、「矢部健三」の名前がしっかりと刻まれていた。矢部君も「同市下今泉五八七ノ六、海老名スカイタウン」はこの日、右手の骨折治療で伊勢原市内の東海大病院に入院していたが、両親から言葉を伝えられると、じっと喜びをなみめている様子がうかがえた。

### 「今後とも耐えぬいて…」



合格を喜ぶ矢部健三君（中央）と父三郎さん、母直子さん

矢部君は会社役員をして、いる三郎さん（前）と直子さん（前）の長男で、姉と弟がいる。小学二年の時に網膜はく離となり百日が失明。東京医大病院などの検査、治療にもかかわらず、六年の時には左目も見えなくなりました。海老名市立海西中に進学したが入学式にも出席できず、一学期から横浜市立盲学校に転校した。

以来三年間、同校で勉強してきたが、進学にあたっては本人が強く一般の高校を希望した。障害者の中で喜んで生きている世界が狭く感じてしまつた」というのが主な理由だった。両親らはこの強い希望に盲学校などの関係者らと相談を重ねた結果、自宅から比較的近い距離にある県立有馬高校の受験を決めた。

受験、とは言っても点訳されたテキストがそう多くあるわけではなく、苦勞の連続。それを除いて支えたのは海老名市内のボランティアグループ「みのり会」（森京子代表）の主婦十人。昨年十一月初旬から国語、英語、数学のテキスト

上の点訳化に取り組んで来た。森さんから話を聞いたほかの主婦も社会科のテキストを録音したテープを矢部さんに届けたこともあった。

二月二十三日に受験。一般とは別室で点字化された問題に取り組んだ。その出来は漢字の問題が出たが、習ってなかったので書けなかった。全般的にもそれほど良くないが、落着くかもしれない思った」と健三君。昨年十月、

学校で卓球の練習後、台を片づけていて右手を怪我。手首を骨折、少しリハビリが残った。このため受験を終えて二月二十七日に東海大病院に入院。二十九日に手術を受けた。

「まだ実感はわかない」と言っていた様子。それでも「落ちたから学校の仲間に向と云われるから心配した」とホッとしていた。この日は級友数人も見舞いに駆けつけ、将来は役所に入り、福祉関係の仕事にしたい」といふ健三君の新たな一歩、を祝福していた。

### 全盲の矢部君お見事 県立有馬高（海老名）に合格

# 高校時代に求めた配慮

- 教科書の事前購入
- プrintの事前配布
- 数学での点字タイプ仕様・触図の作成
- 実技授業での補助教員配置
- 定期試験の点字化・時間延長
- × 校内事故等への責任を求めない旨の制約書

# 全盲のハンディ克服

## 有馬高校の矢部健三君

### 第一志望の法大合格

#### 「みのりの会」などの支援で

海老名市内の全盲の男子高校生が、障害のハンディを克服、五・一五倍の難関を突破して二十七日、法政大社会学部に合格した。同市下今泉、県立有馬高三年生の矢部健三君（二〇）同大で全盲の受験生が合格したのは初めてだが、矢部君は「合格してうれしい。頑張ります」と喜びをかみしめていた。

矢部君は家具会社役員をして「なくなってしまおう」というのが大いなる三郎さん（三）と直子さん（三）の長男で、姉と弟がいる。進学を決めたときから、海老名の時間が与えられたものの、

小学一年の時に網膜はく離で視力が落ち、一時回復したものの四年生のときに再発して右目が失明、その後も治療を続けたが、六年のときには両目とも失明を失った。中学二年の二期がら横浜市立盲学校に移った。高校進学では、強く一般の盲学校を希望した。「盲学校にいたのでは、その世界しかわからな

市内の点字ボランティアグループ「みのりの会」（森京子代表、会員六十一人）の人たちが協力をはじめた。有馬高では、各科目の授業で使用するプリントの点訳を同会が、教科書の点訳を横浜市立盲学校の教職員らが取り組んできた。昨年十月からは矢部君の大学入試問題集の点訳化も進めら

れてきた。こうしてボランティアの人たちの陰の支えで矢部君は、頑張りの抜いて見事、第一志望の法大に合格した。

同大入試は国語、英語、世界史の三科目。大学側で点訳したテスト用紙を使い、国語の場

合一般学生が「二時間」とのこと。矢部君には「二時間半」の時間が与えられたものの、

「点字」で読み取っていくだけになりなかつた。障害があつてもごく普通の高校を出て、普通の大学に入るのが意願でした。それが果たせてうれしい。応援してくれたボランティアの人たち、高校や盲学校の先生らみなさんのおかげで、感謝の気持ちでいっぱい。これからも頑張るに参加してきた明眼快活徒だった。いまままで体験したことを大学でも伸ばしていきたいと、矢部君の新たな一歩を踏み出す。



法政大合格を祝う矢部君（左）とボランティアの先生ら（右）

# 大学時代に求めた配慮

- 教科書の事前購入
  - プrintの事前配布
  - 試験やレポートの点字対応
  - 教室入り口やエレベーターの点字表示
  - 対面朗読室の確保・図書館でのレファレンスサービス・録音図書作成など
- × 情報処理科目の受講拒否

# 社会人になってから求めた配慮

- 職場：
  - HPのアクセシビリティ確保
  - グループウェアのアクセシビリティ確保
  - 会議資料のレイアウト調整
- その他：
  - 役所・金融機関等窓口での代読・代筆
  - 公報PDF版のアクセシビリティ確保

# 仕事や社会活動で提供してきた 配慮

- 配布資料の点訳
- 会報などの点訳・音訳
- 講演会などでの通訳確保



26 12'91

Q: 私たち職員が「合理的配慮」  
のために考えなければならない  
ことは？



# ポイントは

- 障害の社会モデルを理解する
  - 「障害」は、障害者個人の問題ではなく、周囲の人々や社会との関係によって生じるものである
- 配慮の平等性を理解する
  - 合理的配慮は、特別扱いでも逆差別でもない。
  - 配慮は、様々な形でみんなが受けている。

# 差別解消法では

- 不当な差別的取扱いは、行政機関等と事業者ともに禁止
- 合理的な配慮は、行政機関等は義務、事業者は努力義務
- 職員対応要領の策定は、国などは義務、地方公共団体などは努力義務
- 事業者向けの対応指針の策定は、国の義務

# 合理的配慮の実施要件は

- 障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明がある
- 社会的障壁の除去の実施に伴う負担が過重でない

# 視覚障害者だけが対象？

- 視覚だけでなく、その他の障害、聴覚障害や肢体不自由などへの配慮も求められる
- 継続した職員研修が重要

# 当事者のエンパワメント

- 適切に意思表示できるようになるために
- 妥当な合意点を見出せるようになるために

# まとめ

- 配慮はみんな受けている→障害者だけが受けているわけではない
- 視覚だけでなく、その他の障害、聴覚障害や肢体不自由などへの配慮
- 意思表示できるように、合意点を見いだせるようになるためのエンパワメント

# ご清聴ありがとうございました!

- end credits
- 出演 矢部健三
- 脚本 矢部健三
- スライド作成 鈴木絵理
- 触図作成 内野大介
- 点字作成 矢部健三
- 監督 矢部健三